

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム岬
(ユニット名)	ミサキ
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県大島郡知名町田皆2241番
記入者名 (管理者)	有川 春枝
記入日	平成 20 年 11 月 20 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し理念を見直し住み慣れ地域の中でその人らしく安心した暮らしができる様にとの思いで理念に（馴染みの顔・馴染みの環境があれば認知症でも自分らしく生きられる）を柱に置きました。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に理念を伝え理解して貰う様にしています。朝の申し送り後には理念の唱和を行い、職員間で共有すると共に日々のケアの実践に活かしています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には、ホーム便りや訪問時に折りに触れて伝えていきます。地域の住民には各行事や会合また勉強会に参加し、ホームが果たそうとしていることなどを話し、認知症になっても大丈夫な町にしたいとの思いで取り組んでいます。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物に出掛け又近くのゴミステーションの掃除を利用者と職員の日課とし、地域の方と馴染みの関係が築かれる様に努めています。声を掛け合い気軽にホームに立ち寄ってください。畑の作物をおすそ分けして貰ったり、留守にする際は声を掛け合い行き来ができています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	各行事や会合また勉強会に参加し、また職場体験や施設見学も働きかけたり、地域活動に応援や見学の形となりますが参加し地域の方と触れ合う機会を大切にしています。つい最近では島内一周駅伝大会の応援を楽しみました。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	道路や郵便局等で転んだり体調の悪い方を見受けると地域の方はホームへ助けを求めてきます。民生委員も1人暮らしの家へ行き人手が必要な時等は声を掛けてきますので対応し協力しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を理解し、全員で自己評価に取り込む様にしています。外部評価の結果はミーティングで報告をし、改善に向けて検討し実践に繋げるように努力しています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項について経過報告し、現在取り組んでいる内容についても報告し意見を貰う様にしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の保健福祉課の担当者へホーム便りや情報を提供をし、解らないことは助言や資料を頂いたり、サービスの質の確保に努めています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度について研修で学びました。必要と思われる利用者がいたら活用できる様に支援して行きたいと思います。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	グループホーム協議会の研修会や島内で講師を招いての勉強会に参加したり、またホーム内の勉強会で理解を浸透させる様に取り組んでいます。虐待は見逃さない様に十分に注意を払っています。虐待には色々な虐待があること等も勉強しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って丁寧に説明しています。特に利用料・重度化・看取りについて話し合い、医療連携体制等については詳しく説明し同意を得る様になっています。ケアに対する取り組みや考え方も話しています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者個々との時間を持つ様に努め、不安・不満・苦情・希望を聞き満足のいく日々を送って貰える様に努めています。意見は日々のケアに活かしています。利用者の言葉や態度から、その思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族便りで利用者個々の現在報告やホームでの出来事を報告しています。また行事に参加できない遠方の家族にはビデオを送っています。健康状態が気になる方は家族に連絡を取り家族と職員で受診に同行しています。金銭管理は本人の能力に応じた金額を本人管理で支援しています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は意見や不満を言い出すのが難しいことを理解し、第三者委員に話す様に声掛けを行っています。職員は気軽に話して貰える様な雰囲気作りに努め、聞きだす様に努めています。要望を聞いたら職員会議や申し送り後に話し合いを持ち反映する様に努めています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の割合でミーティングを持ち、その中で職員の意見や提案を聞いて反映する様に努めています。日頃からコミュニケーションを図る様に心がけ、問いかけたり聞きだす様に努めています。職員の不満や苦情は言い難い部分もあると思います。把握しきれない可能性もあると思います。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者と家族の自由な暮らしをできる限り支えられる様に、職員のシフトも状況に対応できる中心的職員を1人置く様に考えて組んでいます。管理者は状況に応じた対応ができる様に介護業務や夜勤には入っていないので柔軟な対応ができる様にしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、家族との信頼関係を築くためにも馴染みの職員が対応することが重要と考え、異動は最小限に抑え離職については辞めて後も何度か訪問して貰い利用者へのダメージを防いでいます。新入職する時は、利用者からホームのことを教えさせて仲良くなって貰う工夫をしています。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は働きながら学ぶことの必要性を理解し、実務に支障をきたさない限り研修の機会を与えてくれます。事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できる様にしています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村、同系列同業者との交流もあり、事例検討を通して意見や経験を参考に日々のケアに活かしています。島内のグループホームの交換研修、職員研修の場を設けたり勉強会も受け、福祉従事者の向上に努めています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者、職員のストレスや悩みを把握し、少しでも軽減するために話を聞く機会を設けています。何かあった時はすぐに対応してくれます。働きやすい環境にするための要望を聞いて貰っています。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者、職員の日頃の努力を認めてくれ、働きやすい環境作りや職員の資格取得に向けた助言をしてくれます。時折訪ねて来て利用者、職員の体調を気に掛けてくれます。職員が体調不良の際は勤務状況を把握し応援対応をしてくれます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状況を把握する様に努め、本人の状態や本人の思いに向き合い職員間で共通理解し受け入れられる様な関係作りに努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が求めているものを理解しホームとして、どの様な対応ができるのか事前に話し合いをしています。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人やご家族の思い、状況を確認し改善に向けた支援の提案、相談し、必要なサービスに繋げる様にしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人やご家族にホームを見学して貰うことから始め、自由に遊びに来て貰いホームの雰囲気好きになって安心感を持って利用できる様にしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活歴を把握した上で、その人がその人らしく生活できる様に心がけ、支援する側、支援される側という意識を持たずに、お互いが和やかな生活ができる様に努め共に支えあえる関係づくりに努めています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に利用者の様子や職員の思いを伝えることで家族と職員の思いが重なり合い、本人を支えていくための協力関係ができる様に努めています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、面会や行事に誘い、より良い関係がの継続に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している床屋さんを希望される利用者は連れて行き関係継続を支援しています。定期的にお家を見に行ったり、お墓参りをしたり、利用者の体調をみながら、敬老会には利用者それぞれの字で馴染みの方々と楽しく過ごせる様に支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ひとり孤立させない様に話を聞いたり、相談に乗ったり皆で楽しく過ごす時間や気の合う同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係が上手くいく様に職員が調整役となって支援しています。共同作業を通して利用者同士の関係が円滑になる様な働きかけをしています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に移られた方の所に面会へ行ったり、また移られた施設の利用者と一緒に遊びに来てくれたりと継続的な付き合いをしています。お亡くなりになった家族も時折訪ねてきます。季節の野菜を沢山ホームの為に作ってくれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が、何処で、誰と、どの様な生活を望まれているのか言葉や表情から真意を察し、日々の関わりの中で声をかけし、把握に努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が安らかに暮らしていける様に利用前に自宅に訪問し、また家族に聞き、今までの暮らしの延長線上がグループホームの暮らしだと考え支援しています。これまでの暮らしを把握し、今までの生活環境に近い生活を提供できる様に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の望む一日が過ごせる様に努め、心身の状態も把握しながら、できないことよりも、できることに注目し、個々の力に合わせた生活リハを行い、メリハリのある望む暮らしを心がけています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が適切なより良いサービスを受けられる様に、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き本人の望む暮らし、また家族の望みや希望を取り入れ職員との意見交換やカンファレンスを行いサービス計画に活かしています。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員の情報を確認し、ご家族や本人の要望を入れつつ、期間が終了する前に見直し、状態変化した際は終了する前であっても見直しを行っています。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄など身体状況及び日々の暮らしを記録しています。いつでも全ての職員が確認できる様にしています。勤務開始前には確認は義務付けています。職員間の情報共有を徹底しています。昼夜色分けして見やすくしています。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族には色々な面で柔軟な支援をしています。病院受診や外出、外泊の際は送迎したり満足度を高める様にしています。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられる様に地域の役員や民生員、駐在所のおまわりさんと話し合う機会を設けたり、お力添えを貰ったりしています。また地域の皆さんへのボランティア協力も呼びかけています。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況や希望に応じて町の実施する肺がん検診などを受ける様にしています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センター主催の研修会に参加し、また折りに触れ情報提供したりしています。	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医へ希望に応じて対応しています。ご家族と協力して通院介助したり、医療機関と関係を密に結んでいます。	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	系列の病院は認知症医療に熱心で、家族や職員の話をよく聞き、日常の利用者の姿を通して、適切な指示や助言をしてくれます。	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護との契約に基づき、日常の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行って貰っています。気軽に相談できる関係ができていて医療機関との連携も密にとれる体制が確保されています。	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐために医師と話をする機会を持ちホームで対応可能な段階で早く退院できる様に家族とも情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけています。	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応指針を定め、話し合いを持っています。状態変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の気持ちに注意を払い支援に繋げています。	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	岬で終末期までお願いされている利用者が多くご本人とご家族の意向を踏まえ医師と職員が連携を取り安心して納得した最期を迎えられる様に支援しています。随時意志を確認しながら急変した場合は直ぐ対応して頂ける様に医療機関と密に連携を図り対応しています。スタッフの理解に感謝しています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の施設に移られた方には、新しい住まいでも、 これまでの暮らしの継続性が損なわれない様に、 これまで過ごした生活環境、支援の内容、注意が 必要な点について、きめ細かな情報提供や連携を 取って対応しました。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない</p>	<p>プライバシーを損なわない様に研修会に参加し勉 強したり、ミーティングの折に意識向上を図るとと もに、日々の関わり方の対応の徹底を図っていま す。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけた り、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる</p>	<p>利用者に合わせて声掛けを行い、意思表示が困難 な方には表情を読み取ったり、文字盤を使ったり 本人が決める様に支援しています。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている</p>	<p>ひとり一人の体調に配慮しながら、その日その時 の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別に対 応しています。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行け るように努めている</p>	<p>個々の希望を取り入れ馴染みの床屋さんへ連れて 行ったりして、おしゃれを楽しんでもらっていま す。希望にあわせたカットをして貰っています。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>その日のメニューは利用者の食べたい物を聞いた り冷蔵庫の食材を利用者に説明し、それでできる メニューに決めています。利用者のできることは、 手伝って貰っています。職員と利用者が同じ 食事、テーブルを囲んで楽しく食事ができる様に 雰囲気づくりも大切にしています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員はひとり一人の嗜好物を理解して、本人の様子や時間をみながら楽しめるように支援しています。	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	いきたい時にトイレへ行くことができる様に、本人の生活リズムにそった支援をしています。排泄パターンを把握して、声掛けを行ったりしています。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めずに、利用者のその日の希望を確認しながら、順番も時間も希望を聞きながら支援しています。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整える様にしています。一人ひとりの体調や表情をみながら考慮しています。寝つけない時は、添い寝をしたり飲み物を飲みながら話を聞く様にしています。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力が発揮して貰える様にとのお願いできそうな仕事を頼んでいます。子供達や地域の方が行事等によく誘いに来てくれますが、利用者の希望を第一に考えて支援します。遠出のドライブが岬のベスト1でよく個別に支援しています。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理できる少金額をお願いしています。外出時などジュースやパンを自分で財布からお金を出して買える様に支援しています。自動販売機がホーム内にあるので飲みたい時にお金と相談しながら買っています。	


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の希望に応じて心身の活性に繋げるために日常的に散歩に出掛けています。ドライブによく出掛けます。生き生きさがみられ会話が弾みます。車で外の風景を見ながらおやつを食べるのが楽しみと話される利用者もいます。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	島内なら、本人が思う場所へいつでも連れて行ける様に支援しています。島外へ希望する利用者がいたら計画を立て、連れて行きたいと思います。今のところは希望はありません。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人などに手紙や電話を気軽に掛けれる様に支援しています。便箋・封筒・ペンを準備して声掛けを行っています。母からの手紙を何十年ぶりに貰ってと喜ばれる家族もいます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時を決めずに、仕事帰りやご家族の都合のいい時間帯に来て貰える様に配慮し、気軽に来やすい雰囲気づくりに心がけています。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の申し送り重視し、その日のケアを報告して貰う中で、自覚しない身体拘束していないのか気をつけています。拘束はしない様に取り組んでいます。職員の共有認識が図られていると思います。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出したい様子を察したら、止めるのではなく、さりげなく声掛けをしたり安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援しています。そっと職員が優しく寄り添い、職員間で連携が取れ鍵を掛けずに自由な暮らしを支えています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録したり、時間で決められた職員が、さりげなく利用者全員の把握をする様に努めています。職員が声を掛け合い24時間利用者の安全に配慮し転倒なく、見守りを重視し取り組んでいます。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くのではなく、利用者の状況や変化によって対応しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひとり一人の状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐための工夫を職員間で話し合い取り組んでいます。おどろき、びっくりノートを作り職員の共有認識を図っています。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	系列病院や消防署の協力を得て、緊急手当てや蘇生術の研修を実施し、全ての職員が対応できる様に定期的に行っています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の利用者とともに避難訓練を行っています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出により、抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし所を家族に見てもらったりしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しているので食欲や顔色、様子などの変化が見られた時は直ぐにバイタルチェックを行い、管理者へ報告するとともに職員間で共有し対応にあたっています。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、一人ひとりの服用している薬の目的や副作用、用法や用量についてシートに整理しています。服薬管理、状態変化は月担当を決めて記録、チェックを行っています。訪問看護日は、状態を記録して伝える様にいます。服薬は本人に手渡し、服用されているのか確認しています。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	植物繊維の多い食材や牛乳を採り入れています。散歩や各活動に参加したり、リハの時間には運動をし体を動かし、自然排便できる様に取り組んでいます。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり介助を行っています。義歯の洗浄も行っています。習慣化されています。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を毎日チェック表に記録し職員が情報共有しています。系列の管理栄養士や嚥下の指導者に専門的なアドバイスを貰いながら栄養摂取量を把握しています。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、全職員で予防対策に努めています。利用者及び家族に同意をいただき、職員共にインフルエンザ予防接種を受けています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やフキン等は漂白し清潔に心がけています。調理器具、台所の水回りの清潔・衛生を保つよう、職員で取り決めて実行しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	クリニックを改造してグループホームができましたので、なかなか難しです。少しでも明るいく気軽に入りがしやすい玄関になる様に工夫しています。季節の草花を生けたり季節感を演出しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が多くの時間を過ごす共用空間ですので居心地がのよい様に、また活動しやすく考えたりソファを置いたり工夫しています。壁には毎月季節感を感じて貰うために利用者と職員で壁画を作り貼ってあります。月初めを楽しみにされている利用者が多いです。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中に小さなテーブルを置いたり居心地よい空間を作っています。仲の良い利用者同士でくつろげるスペースもつくっています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れたタンスを持って来て貰っています。利用者が好む物を利用者の置きたい場所に置き、利用者が居心地良い様にしています。また使い慣れた品をご家族にお願いしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調整は職員の感覚ではなく、利用者ひとり一人の状態に配慮しています。空気の入替えも行っています。トイレはこまめに何度も掃除をしたり換気したりして、悪臭を出さない様にしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	利用者の状態にあわせて、手すりや浴室、トイ レ、廊下などの居住環境が適しているのかを見直 し、安全確保と自立への配慮をしています。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	本人にとって何が分かりにくいのだろうか？どう したら本人の力で分かるのか？追求し職員一同で 話し合い不安を取り除く様に努めています。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	車椅子でも外の空気や景色が見られ、地域の方・ 子供達もよく通り建物の周囲を活かしています。 建物の周りを今年アスファルトを敷き、以前より 活用しています。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

県道から少し中に入り、静かな住宅街の中にホームはあります。一歩外に出ると地域の皆さんや子供達から声を掛けられ会話が弾みます。隣近所の方や子供達が気軽にホームに立ち寄ってくれます。子供達は(ただいま)とホームを覗いて帰る子供達もいます。行事がある時は心温まる言葉で誘って貰っています。岬の自慢は安全な散歩のコースがあることです。広い道路ですが車の通りも少なく静かな緑の中を少し進むと溜池があり、その周りを季節の草花が咲き乱れ、地域のお年寄りの集まる場所があり、仲間に入れて貰い会話を楽しむことができます。近くには郵便局・公民館・ふれあい館・保育所・薬局・雑貨店・駐在所といい環境の中にホームがあります。その環境を活かし、地域に溶け込みたい気持ちで地域の一員として開設当初から取り組んでいることがあります。日課として近くのゴミ捨て場の掃除を利用者と職員で行っています。地域の方と挨拶を交し、顔見知りになり、子供達の笑顔を見て元気を貰い、気軽に地域の方もホームに立ち寄ってくれ、季節の野菜を沢山もらい、地域の方やホームを使用してくださった家族との良い関係をアピールしたいと思います。